

蔵書目その十一 書画展観目録

中野, 三敏
九州大学文学部教授

<https://doi.org/10.15017/10474>

出版情報 : 文献探究. 15, pp.42-53, 1985-02-25. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

蔵書目その十一 書画展観目録

中野三敏

相見春雨翁は蚤く大正四年十月の「書画骨董雜誌」に、御家蔵の東山新書画展観目録寛政八年、九年の二冊をもとに「東山の書画会」と題する一文を寄せられ、皆川淇園主催のこの会こそ本邦に於ける新作絵画展覧会の嚆矢と断じられてその内容を細かく報じ、「片々たる展観目録も史料として馬鹿にならぬものである」という一文で、その論をしくめくられた。その後、その目録そのものは脇本楽之軒のきにより「美術史学」昭和十九年一月号に寛政八年分が、同じく同年三、四月合併号に寛政九年の分が全文翻印され、見巧者楽之軒の筆によつて、「層々馬鹿にならぬ」所以が解説された。私にはその値打ちはまるであらうぬながら、例によつて序政者に文人連中が顔を出すこと、内容が一種の文人名鑑となること、大むね茶表紙の小本一冊という姿が好みに合うことなどかう拾い集めて若干の分量とはあいなつた。こゝにその目録の目録を試みるものである。謂わばこの筋の大名物とも言うべき寛政八・九年の目録には残念乍らまだ行当らぬが、明らかにその会の嗣出と思われるもの何年分かは入つてゐる。明治になつて益々盛んになつたようだが、こちうの興味とはズレてくるので今回は一応明治二十年迄に限つた。

こうして並べて見ると一番二番などは淇園の会よりも早く、しかも一は讃岐高松、二は尾張名古屋と三都以外

の場所での展観であるのは意外といへば意外である。もつともこの二例とも元明清の古書画の展観で、やはり邦人新書画の展観はお淇園の発企を以て初発とすべきであらうことに変わりはない。しかしこゝうした地方での古書画の展観の頻発が淇園の発企に何がいかに影響をあたえたのではないかと、いう事は容易に考え得ることではある。また全体に御目通し願えば御わかり戴けることだが、右の讃岐と名古屋及び三河、それに九州は豊後日田辺りが三都を除いては最も頻繁に展観が催される場所であり、という事はとりま直マツ近世後期に於ける地方文化の在り様の一端がこゝに顕在するのを見てよいのではなからうか。

本来ならば古書画の場合はその収蔵品目、出陳者、新書画の場合はその製作者を網羅せねば、資料にはなるまいが、書物の性格上、それは全点を全文翻印するのと同じ事で、当座この場で出来ることではない。内容は前記の楽之軒翻印二部を見て御推察願う以外は今今の所致し方ない。尚「画説」第七十号には「徳齋翁遺稿展観畫録」一冊が、同六十一号には吳春遺稿「流芳遺事」一冊が、何れも田中喜伴氏によつて全文翻印されている。即ち本目録四及び九に掲出したものである。

城南七寺書畫會記

方今緝熙之化下洽黎庶不但
舍哺鼓腹三都之間艷玩書畫
戶荆闕家顏柳鬪奇誇妙寔太
平之樂事也哉名府於三都也
乃魯衛伯仲之間而韻事却有
不遜者矣寬政乙卯之秋七月
吉日府下及近邑之好事家袖
卷携軸咸集于城南七寺自宋
元已下數百幅山水花卉翎毛
人物篆隸行草靡不具備乃不
出于一堂之中而卧游臨池之

三、蓬瀛勝會下卷·城南七寺書畫會記
同與付

樂極矣一時之勝會遂至傳播
于三都即必有識出乎國家
善治之緒餘者然此會也不庶
幾稱揚風化之萬分也耶因聊
記梗槩以備他日之談柄是日
非携書畫者不許預此席如有
觀者非此例云

乙卯初秋朔文和識于城南
七寺長福精舍

寬政乙卯秋七月吉日

名護屋風月堂發兌

一、暢春椿展観(外)

中本一冊。寛政五年刊。於護岐暢春椿。共表紙原裝外題摺付。内題「癸丑三日暢春椿書画展観目次」讚陽 青山樵雲隣録。後藤漆谷・梶原藍集・張竹石鑒定・東溪題辭、竹石口絵。寛政五年三月玉堂某士序。鹿庭源汝翼跋。青山樵凡例に「今茲三日諸君子会于余暢春椿各携其所蔵古書画展観之余竊拊之餘乞漆谷藍集竹石三先生為鑒定輯其目尔」。宋元明清古書画。

二、蓬瀛勝會(序)

中型二帖。薄茶色包背裝唐紙摺り。寛政七年七月於名古屋七ツ寺。清水長孺序。山墨湖凡例。寛政七年七月林文知撰「城南七寺書画会記」。岡田挺之跋。藤益根跋。社友「天游神元等」五石山墨湖「綠泉中樵復」蘭諸内宣經「鷗鳴館信庸」伝芳平兼雄「吼雪杯文和」梅屋十時賜。優品のみ落款畫題等撰刻。「会記」に「寛政乙卯之秋七月吉日府下及近邑之好事家袖卷携軸咸集于城南七寺自宋元已下數百幅山水花卉翎毛人物篆隸行草靡不具備乃不出一堂之中而臥游臨池之樂極矣」。宋元明清古書画、総計百十八幀。

三、蓬瀛勝會(序)

中型一帖(二の下巻のみ)。但し縹色表紙包背裝原裝。本用紙もや、厚手の布目紙を用い、「寛政乙卯秋七月吉日」名護屋風月堂發兌」と大書す。裏付あり。賣品也。

四、展観畫録(外)

中本一冊。薄茶表紙原裝。文化四年七月迄卷十三回忌追善。九月十三日於圓山也阿彌展観。見返し「優齋翁追善」展観畫録「怡真堂蔵」。寛政六年五月皆川淇園撰西湖水記。文に曰く「寛政四年大村度命瓊浦司神代某令唐山尚沈峯山

五、展観畫録(外)

小本一冊。共紙表紙原裝外題摺付。見返し「蘆雪翁追善」展観畫録／文化七年庚午三月廿七日於圓山也阿彌 祭主長澤蘆洲。総計一百六十二幀。邦人新書画。

六、生申銷夏記(外)

中本一冊。縹色表紙原裝。文化九年四月於東山長喜巻展観。見返し「台麓先生輯」生申銷夏記／芸香書堂。文化九年五月鳩峰山人序。源昌題詩。台麓石希聰編輯。通計六十品にフコソの落款や書題を記録し品評を述べる。宋元明清古書画。

七、癸酉展観目録(外)

小本一冊。黄色表紙原裝。文化十年九月廿五日於山小橋大應寺木村契齋十三回忌追善展観。木村孔陽跋。総計百八十一幀。邦人新書画。卷首「兼葭堂」の朱印あり。

八、乙亥平安三樹博展観品目(内)

小本一冊。縹色表紙原裝。題簽「□可亭書画□□乙亥□」。文化十二年從正月至十二月十二回展観。四月迄於次不亭。五月より於小川權木町上。正覚寺。文化十三年正月頼山陽序。柱に「南可亭銷夏記」とあり。裏付「文化十三丙子歲正月」書林。井筒屋安兵衛／吉野屋秀八。序に「南可主人好書画毎月会友展観彼此所蔵不惟支那名蹟乃至此方近

櫻園

竟以四學大村為命優浦澤司神代志
今為山南沈苔山所抗物西湖水東城人
策山延弓適至優浦澤主錄澤一畫以為之攝
平聖僧海音之言生畫將入京以贈予
予以其水磨畫作每幅為五條濱以賜
源仲選以作西湖圖之

六年仲夏分

比川至後

印

印

展觀車錄



右西湖水得記
及西湖因得
二州西湖水
抗州西湖水
所也二水
生進也二
之餘俟二
之附好端以
貽同精馬勝
寫不真恐失
其置耳覽者
位察之門識
其察之門識
與文焉謹識

四 展觀畫錄·卷頭 皆川淇園撰西湖水記

並以此與文鳴撰心亭西湖小景圖

五 展觀畫錄·見返一、一丁才毛

蘆雪翁追薦

展觀畫錄

文化七年庚午三月廿七日於
圓山也阿彌 祭主 長澤蘆洲

展觀畫錄

梅花圖

讚

墨梅自讚

古松圖自讚

讚

墨竹圖

讚

垂絲櫻小禽圖

花山院中納言藤原家厚卿

花山院右大將藤原愛德卿

錦小路修理大夫丹波賴理卿

小倉右近中將藤原豐季朝臣

勘解由路左京大夫藤原資善卿

豐岡左馬權頭藤原治資朝臣

日野右大夫宰相藤原資愛卿

舟橋三位清原師賢卿

岩倉入道三位可汲

九 流芳遺事(外)
古鷹紳碩儒崎人高僧之所為莫不圖羅焉」といふ。唐画・邦人書画混雜、色蕉・蕨村・賣茶翁等迄、毎回三、四十幀。

大本一冊。共紙表紙外題摺付原裝。康熙綴じ。文化十四年三月十九日於京極大聖院是任院。吳月溪七周忌追薦展覧。内題次行に「吳景文士藻 編録／岡本豊彦子彦 品定／紀 廣成伯道 叅校」。文化十四年余月村瀨禱亭序。朱摺。石川之聚撰吳月溪伝。文化十四年三月吳景文跋。同年同月岡本豊彦跋。「会主 吳景文／幹事岡本豊彦／柴田義董／僧月靜／紀 広成／東 寅／王 百谷／山野萬寿／小栗伯圭」。吳香遺墨のみ統計百二十三幀。画題、法量、紙質、落款、題贊、所藏者を記す。

十、千秋揚輝(題言)

中本一冊。薄茶表紙。原裝。無題簽。吳月溪七七忌追薦展覧。文政六年九月奏鼎序。同年同月小栗伯圭跋。会主小栗伯圭。執事安藤蟻殿。跋に曰、「先師月溪先生没之七年、伯圭開書画会以祀之。録四方諸賢所賜以為一卷。日月流邁、今茲九月、早已又七年矣、今復乞諸賢筆跡、布奠於前。」と。統計三百四幀。全了梓及び罪朱摺り。邦人新書画。

十一、展覧書畫録(見返し)

小本一冊。黄色表紙原裝。見返し「天保二年辛卯暮春／展覧書畫録／会主 備後 静齋伊藤森」。邦人新書画。統計二百七十幀。

十二、雲烟 供養展覧録(外)

中本二卷一冊。特色表紙原裝。天保四年八月北殿主四百年忌追薦展覧於東福寺。見返し「新古書画／雲烟 展覧録／天保癸巳秋八月」。天保四年八月龍眠野納幹御序。同年同月

贈菴紀蓮序。同年九月小田海優跋。同年秋小石龍序。山本梅逸跋。北殿主遺墨百四十幀。和漢古書画百三十幀。邦人新書画二百幀。統計四百七十幀。遺墨及び古書画は畫題、法量、落款、題贊等を記す。

十三、展覧書画品目(外)

中本一冊。薄茶表紙原裝。洒卷立北所輯邦人新書画展覧。天保六年陽月大窪詩仙序。洒卷立北序。柱に「花崎文庫」。統計三百五十九幀。

十四、展覧録(内)

小本一冊。表紙欠。扉に「丙申(天保七年)秋新鐫／筆華墨香供養／琶江吟社藏碑」。田能村竹田一周忌追薦展覧、於豊後鶴崎。盟主後藤碩田。帆足吾雨。天保七年三月角田九華序。竹田遺詩二首田能村邦善。天保七年清和月帆足吾雨跋。同年九月後藤碩田跋。邦人新書画百九十六幀。和漢古書画六十四幀。

十五、墨林嘉栗(題言)

中本一冊。黄色表紙原裝。吳月溪・小栗伯圭追薦展覧。天保八年九月奉世寿序。柴山東嶽題詩。天保八年九月相馬琴小引。小栗豊水跋。会主小栗豊水、鳩々女史。統計四百七十三幀。邦人新書画。用箋百十七回。梓及び罪朱摺り。

十六、思功供養展覧目録(内)

小本一冊。薄茶表紙原裝。天保十年五月狩野永納追薦並に檜山成徳古稀賀延展覧於淺草寺中日吉院。見返し「壽識雙稀」。天保十年八月檜山成徳跋。跋に曰く「狩野永納翁嘗著本朝画史、後世鑒画之模範而其功最偉。(中略)諸名家各搦画史中所載奇幅惠然肯來、妙蹟燦然四圍」と。統計八十七幀。

癸酉九月展觀目錄

○東都部

蒼松白鶴圖

金衣白梅圖

蘆雞

緝紙金泥書七行

鐵筆蟠桃白雀圖

白梅山茶圖

福祿壽圖

行書七絕

百子千孫圖

鴛履達磨圖

墨竹

玄上丈人圖

北野通夜物語

玉兔挂月

月梅圖

春江魚艇圖

行書七絕

連歌一句

五言詩

墨竹

七言詩

草書七絕

雪齋增山侯

同

如蘭稻垣侯

美陽大久保侯

慶翁片桐侯

懶齋久世侯

井戶董烈君

大浪石川君

鶴峯西尾君

草音杉原君

栗園山崎君

錦聚服部君

東閣小栗君

雲峰大岡君

南畝太田君

中川已省

立原翠軒

大窪天民

同

市河寬齋

追加讚州之部

淡彩山水

草書七絕

墨畫菊

和歌一首

行書五絕

同 七絕

戶祭雪屋

牧信藏

牧藤兵衛

牧久兵衛

松尾

石原正七

癸酉九月廿五日於山崎大極寺豫

修千家公孫墨齋十三回急之修

事 同

備生之公惠賜之書畫展之於堂平

且一之錄其品目而屬之持 後以洩

今日之情

孝子

木村孔陽 漢武藏

圖

▲七癸酉展觀目錄·卷頭

同·卷末·跋文

※「本朝画史撮要目録」と題する横本一冊全六丁の板本あり。「画史」中の著名画人の名録にて、搜者の名及び干支を記さず。しかれども末に、右本朝画史撮要目録ノ外モ同書ニ出タル画人ノ分ハ誰ナリトモ可然候但シ全ノ序狭ク候ニ付御一名ニテ一種ツ、ト定メ申候三幅対迄ハ一種ニ立候也当日展観ノ目録ハ会後早速刻シ進呈可仕候以上とあれば、右展観に際し捨山氏により前以て作られ出陳者に配布されしものと思わす。

十七、烟雲過眼（見返し）

極小本一冊・薄茶表紙原裝・見返し「天保壬寅冬鑑／烟雲過眼／順祥堂蔵板」・内題「關画名列」・竹窓源龍序・天保十三年二月百綯跋。序に曰く「皆川淇園先生嘗与洛下諸友士每歲為書画之会先生既没其事遂熄近者岡吳両社諸子情雅事之廢歇其謀續旧緒今茲以九月廿二日会洛東吉水各出所製以邀觀者品評所集画凡八十餘幅人々心醉眼飽屬展而已」と。岡吳両社は岡本豊房、吳景文の社中。

十八、書画展観録（見返し）

小本一冊・黄色表紙原裝・見返し「應考先生追福／書画展観録／不老館蔵」・天保十五年八月十七日應考五十年忌南岳三年忌追薦展観於浅草寺中日音院。天保十五年八月大酉橋年序。同年同月松居南岳凡例。会主松居南岳。南岳遺墨二十四幀、新書画三百三十幀。

十九、新書画展観録（外）

小本一冊・薄茶表紙原裝・見返し「弘化二年己巳九月十四日／新書画展観録／會主三陽吉田思田石峰印」・弘化二年至日大田暗軒序。思田石峰跋。於三州吉田宗文堂。巻末に朱不記あり「尾州巾下樽屋町／皓月堂文助製本」。統計四百七十四幀。邦人新書画。

廿、圓山應震十三回忌追薦遺墨展観（内）

小本一冊・水色表紙原裝・見返し「蝨斯勵翼」。嘉永二年四月十九日應震十三回忌追薦展観於圓山正阿彌。会主應立山本弦堂序。應立跋。應震遺墨九十七幀。應考遺墨百一幀。應瑞遺墨二幀。木下應受遺墨五幀。通計二百十五幀。同日左阿彌に於いて新書画二百余幅も展観、其目録は嗣出とあり。

廿一、展観録（外）

極小本一冊・朱色表紙大和綴り原裝・内題「圓山勝興庵古書画展観幅目」。嘉永三年七月廿八日於圓山勝興庵。会主大橋淡雅。嘉永三年八月賴立齋序。奥付「京師／齋雙堂／清雅堂／同祥」。総計七十二幀。明清古書画。

廿二、紅葉の錦（外）

中本一冊・共紙表紙外題摺付コヨリ綴り原裝・内題「管神尊影展覧幅目 順次任着到」。嘉永五年二月五日管公九百五十年忌追薦展観於亀井戸天満宮。催主赤川尚章、板橋定時。補助山名行雅、関口定真。嘉永五年二月五日藤の屋弘定序。同年同月日小野忠寶跋。管神影、神子、神筆の古書画統計五十七幀。

廿三、亀井戸天神展覧會目録（外）


中本一冊・共紙表紙外題摺付大和綴り原裝。嘉永五年三月七日管神九百五十年忌追薦展観、於亀井戸天満宮。会主関翠岳。補助古筆了伴。嘉永五年三月七日古筆了伴跋。管神像、神子等古書画、統計百三十八幀。

廿四、展覧會追加目録（外）

中本一冊・共紙表紙外題摺付大和綴り原裝。前掲廿三の追加目録。廿三の末に「当日携へ来給品々口追加に板行す」

乙亥平安三樹樓展觀品目

序二丁ウラ、本文一丁オモテ

棋噓口各規於古色也
 屋南直下法新素小
 文筆、粗惡字愈拙亦
 知淨物、不必可劣也
 山陽外史


乙亥平安三樹樓展觀品目	正月廿六日 茨木其平
牡丹花懷低	咏、立春天一首
松花堂	雜子画
近清信尹公	道、予一首 月岑和尚次為和者、玉不知、以月知者 各體、以各花押、外、手、松、松、六一幅
一休	一、抄、物 外、玉舟和尚、陸、言、一、幅
寧一山	四字一行
相阿弥山水	
大雅堂山水	從地細画
系園二幅	中、盆、石 左、右、花、多

南可事銷夏記

廣田氏藏
 明張瑞圖水墨山水絹本
高四尺八寸
 闊尺六寸五分
 款云日暮嶽峯陰天秋百泉響
 右題跋二幅副
 白毫菴瑞圖
 張瑞圖之書華力道選拔俗絕倫其書不易
 得也然而書者適可以得画則固不可得矣
 浪華七僧居士得瑞圖墨画山水一幅携來
 示余余乃挂之款乃樓上覽之大岳突兀劍
 峰奇峻草屋枯木飛瀑長流恍如俾人遊於
 浪蕩方壺之間也姑以其書較其画則如高
 遠也仔細觀之則一曲陽春之下也於戲圖
 也一大傑矣哉
 室曆癸酉冬十二月淇園主人里恭識
 張三水有詩曰滿壑清陰滿澗苔茶煙生處
 薜蘿開山僮顏報敲門客知為催詩索画來
 故知亦癖畫今觀其真蹟滿瀉洒脫却塵
 格實是希世之寶也
 甲戌晚春為七僧居士題
 三岳道者池無名

廿五 觸目琳琅・初丁

とあるもの。総計六十八幀。

廿五、觸目琳琅（外）

中本一冊。茶色表紙原裝。題字「壬子晚春／雲煙鐘祥／膝公誠書印」。嘉永五年三月九日江青根介跋。嘉永五年三月十九日梅逸古稀祝寿展觀於東山通仙棹。總計百十九幀。画題、紙質、法量、落款、題跋、所藏者等正記録、明清古書画。

廿六、舶客四家展観録（外）

中本一冊。桃色表紙原裝。嘉永五年十一月廿五日、伊予九張秋谷・貴晴湖・江塚圃四家遺墨展観於讃州高松福善寺。会主留雲馬新、竹所島衛、竹雨村登、翠亭木邊、茶山倪鑑。嘉永五年小至日小田園主人序。同年閏月阿部良山序。同年十月例言。卷末に「高松府 錦花堂刻」。伊予九十五幀。張秋谷七幀、貴晴湖二十三幀、江塚圃二十五幀、總計七十幀。画題、紙質、法量、落款、題跋、藏者等正記録。

廿七、墨華流芳（外）

小本一冊。薄茶表紙原裝。嘉永六年四月望日玉川一周忌追薦玉川遺墨展観於京都大聖院。会主望月玉漢。嘉永六年四月若垣龜序。柱記「資清館」。刊記「嘉永六年五初夏」。玉川遺墨百十一幀、門人新画十一幀、總計百二十二幀。

廿八、書画展観録（外）

小本一冊。薄茶表紙原裝。題字「歲次癸丑夏之孟／墨林／快事／白水居士題印」。嘉永六年四月十七日、十八日兩日展観。近世古書画を主品とし次いで「南北朝」、「先哲叢談」の題を設けて所縁の古書画を展観。十七日分主品八十一幀、「先哲叢談」題二十七幀、「南北朝」題二十七幀。十八日分主品七十六幀、「南北朝」題十六幀、「先哲叢談」題二

十七幀、唐人古画十二幀、總計二百六十六幀。

廿九、臥遊清賞（外）

半紙本一冊。薄茶表紙原裝。題言「松石／問意／荅陽圃」。嘉永六年夏山田家。杜家藏品展観於豊後日田。会主五岳、木下逸雲、五岳跋。總計百三十六幀。明清古書画、所藏者、画題、法量、紙質、題跋等記録。

卅、展観今書画目録（外）

小本一冊。朱色表紙外題摺付文和綴り原裝。内題「安政二年己卯九月十五日於圓山也阿弥今書画展観」。卷末に「會主平字下数珠屋町東洞院東へ入梅豊吉田太兵衛」。裏表紙に「版本彫刻摺物所／六角柳馬場西へ入山堂」の朱木記あり。總計二百六幀。

卅一、文飛應孝眞蹟展観目（外）

小本一冊。朱色表紙文和綴り原裝。内題「文飛應孝二先生眞蹟展観目／会主 古琳輯録」。安政四年三月廿日、廿一日兩日展観於西国東栢棹。安政四年正月大橋訥庵序。同年閏月湖山道人序。古琳跋。安政四年九月僧頼南跋。文飛遺墨五十五幀、應孝遺墨四十五幀、總計百幀。

卅二、書画展観録（外）

小本一冊。白表紙外題摺付文和綴り原裝。安政五年三月廿五日新書画展観於三州吉田聖眼寺。会主栢田文笠、栢田復田。安政五年夏横山湖山序。同年五月十五日栢田復田跋。總計八百餘幀。邦人新書画。

卅三、四美具（見返し）

中本一冊。薄茶表紙原裝。安政六年九月晦日展観於浪華石街三橋棹。会主宮内栢鼻。安政六年小陽月貴松翁序。同年同月宮内栢鼻跋。總計六十一幀。明清古書画。画題、

紙質、法量、題跋を記す。

廿四、應瑞應震追福遺墨展観（仮）

小本一冊。白色表紙原装。内題「圓山應瑞三十三回忌／同應震二十五回忌／為右追福遺墨展観」。文久元年九月十九日於洛東正阿弥袴。家望松崎序。山田後跋。應瑞遺墨九十五幅。應震遺墨十四幅。應受遺墨五幅。應震遺墨三十九幅。總計百五十三幅。製作年記入。

廿五、了佐居士式百年忌追福古筆展観月録（外）

中本一冊。表紙表紙外題摺付天和綴上原装。文久元年二月二十七日於不忍池弁天社。執事赤松琴二。文久元年三月赤松琴二序。掛物百六十三幅。歌書八部。卷物帖二十三卷。總計百九十四幅。

廿六、道華餘意（外）

中本一冊。薄茶表紙原装。文久二年三月玉禪七周忌追薦展観於名古屋城南洞仙寺。会主梅處。文久二年四月月老人序。同年同月山田訥齋跋。卷末に「名古屋／五條町／橋左堂」の朱木記あり。總計百二十幅。元・明・清古書画。画題、法量、紙質、落款等を記す。

廿七、春薦餘事（外）

中本一冊。白茶表紙原装。万延元年閏三月十五日鶴居堂熊谷運心一周忌追薦展観於圓山多福庵。会主熊谷道孝。同直善。補助山中静逸。後藤田南溪。頼立齋。吉田公均。中西耕名。柳田香谷等。節庵主人題詩。万延元年四月山中静逸序。同年同月頼立齋跋。刊記「京吉林 寺町御池下町 橋屋久兵衛」。後藤田南溪筆口絵。總計二百八十六幅。元・明・清古書画。画題、法量、紙質、落款等を記す。

廿八、書画展観録（外）

小本一冊。黄色表紙原装。内題「新書画展観月録」。卷末に「会主 蘭坡飛國香録」とあり。總計三百四十七幅。開催地、年月日等不明なるもの十一の天保二年版と同体裁。出陳の顔触れは京に山陽・竹洞・岸駒・岸岱・景文・豊彦、江戸に五山・文晁・詩仙・米菴・北齋・林谷等あり。

以下、明治期

廿九、金洞餘音（外）

中本一冊。緑色表紙天和綴上原装。明治三年四月廿六日米菴十三回忌追薦展観於西国橋東中村袴。会主萬庵。松平確堂題辭。聚仙亭主人口絵。明治三年七月佐藤立軒序。同年同月頼立齋跋。總計三百五十九幅。邦人新書画。茶席、清唱席の月録を附す。

四十、逸雲展観名列備遺墨（仮）

中本一冊。茶表紙原装。活版。内題「展観名列」。明治三年八月一日木下逸雲五周忌追薦展観於長崎春徳寺。会主逸雲孫木下瓊江。明治三年十月池原日南序。木下宏跋。新書画六十四幅。逸雲遺墨八十八幅。總計百五十二幅。

四十一、雲情霧影（外）

中本一冊。茶表紙原装綴上原装。内題「展観目次」。明治三年九月豊後千原花溪東上送列展観於雙林寺中間阿弥。催主永寿堂。蕉雨堂。明治三年九月広瀬青郎題辭。江馬天江題詩。山本竹雲跋。總計四十七幅。明清古書画。画題、紙質、法量、題跋を記す。

四十二、山静日長村舎書画展観録（外）

中本一冊。茶表紙原装綴上原装。明治五年正月廿日舟屋山

人雅堂展觀於讚州山靜日長村舎。会主舟鼻山人。明治五年正月梅村退士序。舟鼻山人口絵。三聖卷主人梅村題詩。統計三十六品。明清古書画冊。室の窄狭なるにより巨幅長條を省き横巻帖冊のみを出陳するといふ。

四十三、太宰府博覽会目錄(外)

升聖本一冊。白地梅花藍色摺付表紙大知綴(原裝)。明治六年四月於筑紫太宰府天満宮。会主尾崎孫。西高辻信嚴。三木隆助。刊記「版元」荒巻武七。小野田次三郎。安藤圭次郎。初二丁図録。和漢古書画古器物類。

四十四、熊谷醉香居士追福書画展觀録(外)

極小本一冊。茶色表紙厚裝。見返し「明治八年十一月」熊谷醉香居士追福書画展觀録。欵乃邨壯威祥印。明治八年十一月六日、七日於東京陸上欵乃邨壯。明治八年十月栗蘭田序。同年十一月八日蘭田跋。刊記「東京農三堂祥」。会主栗蘭田。總計十七幀。明清古書画。附録茶識記及び席上諸家(淺野梅堂、野村素軒、長三洲、巖谷迂堂等九氏)詩作。

四十五、三聖盃着懸書画展觀小録(外)

中本二冊。紺紙金砂子表紙。康熙綴(原裝)。明治八年十二月二十二日山田梅村華中記念展觀於高松三聖卷。梅村自序。見孫題詞。山中静逸跋。卷末に「高松尾崎平造刊不却吉平刻」とあり。奥付「明治十三年三月廿五日御届」同年五月出版。定價金五十錢。著述者愛媛縣士族山田勝次。愛媛縣下讚岐國香川郡高松天神前五十二番邸。出版人京都府平民志水茂助。上京区第七八組虎屋町第五百六十四番地。發賣所「堺町三條南清雅堂」。寺町堀小路角鳩居堂。御馬場御池南

文石堂。統計百八十七点。明清古書画古器物類。全点品評

四十六、古書画鑑賞会図録(見返し)

解題を附す。
卷一。半紙本二卷一冊。薄茶表紙康熙綴(原裝)。明治十二年五月三日於瓊月棹。会主下條桂谷。狩野探美。明治十二年六月日南野人序。如淵散人誠實序。明治十二年六月下條桂谷跋。卷末梓外に「三田小八郎刻」。奥付「明治十二年六月出版御届」出版人「東京日本橋区北紺屋町廿番地渡辺直文郎」。同浅草区浅草北元町四番地赤松徳三。東京須原鐵二。同田沢静雲。大阪山中吉郎兵工。長崎池島正造。本邦古書画五十四幀。宋元明清古書画三十五幀。總計八十九幀。優品数点獲利図録を附す。

四十七、古書画鑑賞会図録卷二(内)

半紙本二卷一冊。薄茶表紙康熙綴(原裝)。明治十二年六月出品。会主前掲四十六と同人。勝海舟題詩。明治十二年六月淺屋迂夫序。雲烟外史序。明治十二年秋下條桂谷跋。奥附口前記四十六と同一。本邦古書画七十一幀。宋元明清古書画二十幀。總計九十一幀。優品数点獲利図録。

四十八、古書画鑑賞会図録卷三(内)

半紙本二卷一冊。薄茶表紙康熙綴(原裝)。明治十二年七月出品。会主前掲四十六と同人。明治十二年秋霞堂題詩。光緒五年十一月沈文燮序。明治十二年十一月横山由清跋。奥附口前掲四十六と比べて初行本「明治十二年七月五日出版御届」となり。次に「編輯人」として下條、狩野二氏の名を八入。その他は凡て四十六と同文。本邦古書画七十六幀。宋元明清古書画二十三幀。總計九十九幀。優品数点獲利図録を附す。

四十九、帖史(外)

中本二卷一冊。水色表紙原紙綴じ原裝。扉「庚辰之春仿古
／帖史／天江書客欽印」。明治十二年四月六日古法帖展
／觀於大宮御所博覽場。評所。全主山中獻。烟成文題辭。巨
勢小石畫口繪。山中靜逸跋。柱に「対嵐山房」。奥付「明
治十三年五月三日御届／同年六月出版／編輯者出版人 京
都府士族山中獻／京都府下山城岡野野郡天龍寺村千八百八拾
七番地／發賣所／鳩居堂／右樓堂／文石堂／竹包棹」。総
計三百帖。古法帖。

五十、同好社展観目録（外）
第二全展

小本一冊。茶表紙原裝。明治十六年三月十八日於名古屋博
物館。韓山人題辭。総計九十四幀。尾三地区邦人新画。目
録は未治。

五十一、同好社展観目録（外）
第五全展

小本一冊。茶表紙原裝。治版。明治十六年九月廿三日於愛
知縣博物館。総計八十四幀。尾三地区邦人新画。

五十二、同好社展観目録（外）
第六全展

小本一冊。茶表紙原裝。治版。明治十六年十一月十五日於
愛知縣博物館。総計九十四幀。尾三地区邦人新画。

五十三、曾祖唐孝九十年祀為右追福遺墨展観（内）

小本一冊。薄茶表紙。治版。明治十七年四月於東山正阿彌
会主国并應文。明治十七年猶清和月三益堂序。明治十七年
四月三月高福政。遺墨二百二十九幀。丸山派新画八十九幀。
総計三百十八幀。

五十四、雲相
依表展観録（外）

中本一冊。茶表紙原裝。十二に掲出せしもの明治十七年
覆刻版。卷末に明治十七年三月鳩居堂熊谷直行撰の跋あり、
東福寺蔵板の原板が焼失したので、に二千部を覆刻す。

五十五、若冲居士追福展観録（外）

中本一冊。茶表紙原裝。治版。明治十八年四月十二日若冲
八十五回忌追福遺墨展観於相国寺。催主中村三四郎、川端
彌七。獨園題辭。米僂字若冲居士肖像。大典撰若冲居士寿
蔵福名。大典禪師三十幅之記。若冲記寫進状之写（明知乙
酉九月晦）。明治十八年七月久保田米僂政。遺墨七十二幀。
相国寺竹室知漢古書画四十六幀。總計百十八幀。

五十六、関東四大家妙品展観目録（外）

中本一冊。茶色表紙大和綴じ原裝。治版。見返し「関東四
大家妙品展観目録／畏三堂蔵印」。明治廿年五月廿八日、
廿九日、文晁、華山、椿山、疎林四大家遺墨展観於上野松
源楼蓬萊寺岡田亭。催主須原畏三、田沢静雲、若井兼三郎。
明治廿年六月凝堂居士跋。文晁三十一幀、華山三十四幀、
椿山二十九幀、疎林十四幀。総計百八幀。他に浮世絵五百
点とあれど目録はなし。

九州大学教授